

新型コロナウイルス感染症が招いた「新たな生活様式」と保育実践

その3

コロナ禍での苦難を 「未来に活かす」

京都大学大学院 教育学研究科 教授
公益社団法人全国私立保育園連盟 理事

明和 政子



今直面している困難を未来に「活かす」

- ✓ 環境の影響を強く受けながら脳を顕著に発達させている子どもたちから、他者と身体接触しながら（心地よさを身体で感じながら）学ぶ機会を奪っていくコロナ禍
- ✓ コロナウイルスが収束・終息しても…
他者との対面型コミュニケーションは以前のように戻らない？
オンラインでのコミュニケーション様式は 今後いっそう定着していく
- ✓ 今後の保育実践に期待される重要課題



生物としてのヒトの脳発達を守る環境の模索と提供

「保育」という職業

- ✓ **今の時代の「保育」に求められること**
単に“保護して育てる” “子育て代行サービス”ではなく
**「ヒトの脳と心の発達を守る環境経験」を
提供する “プロフェッショナル”**
- ✓ プロフェッショナルとしての成果を
「科学的に裏づける」 「客観的データを明示する」

コロナ禍で生じたさまざまな家庭・保育現場
での個々の問題事例（情報）を体系化して
未来に活かす「専門知識」としよう！

保育現場で得られるデータに「価値」をもたせ 将来に活かす

✓ 保育園・こども園でしか得られない貴重なデータに 「価値」をもたせる

- 家庭や保育現場，社会で顕著に起こった問題と対応策，その効果
- 環境変化が，子どもたちの行動や精神面にもたらした変化と時期
- 親御さん・子どもへの対処のしかた，その効果
- 保育活動の制約，そこで生じた課題…

✓ 「大規模データベース」

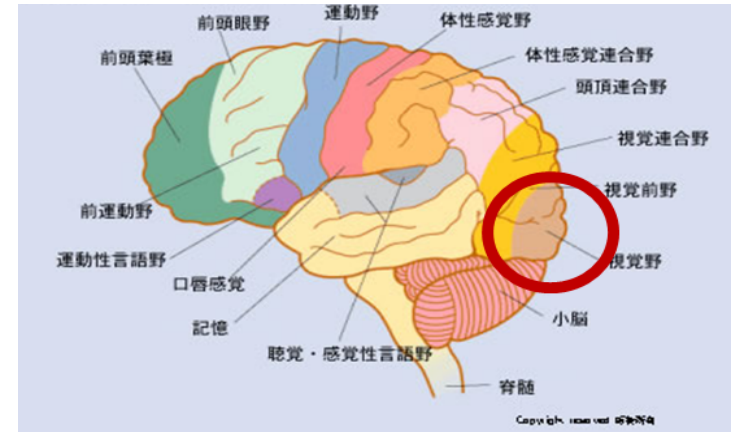
- 情報科学の手法を適用し，データから特徴的なパターンを見出す
- 将来起こりうるリスクを予測できる
- 同様の危機が来た時に役立つ知識体系を全国で共有できるシステムを構築



「マスクをした」他者との日常経験がもたらしうるリスク

✓ 脳発達の「感受性期」

環境の影響をとくに強く受けて
脳内の神経ネットワークが形成
される「特別な時期」



- ✓ 視覚野：生後8か月ごろから，表情認知にかかわる
神経ネットワークが経験により顕著に変化

他者の動く表情を日常的に目にする
経験が乳児の表情認知を促進する

他者の表情を認知し，模倣しあう
→ 「共感する心」の発達



「マスクをした他者」が日常化することで生じうるリスク

- ✓ マスク着用が基本の「新しい生活様式」
しかし、乳幼児の脳と心の発達に与える影響についての考慮はまったくなされていない
- ✓ 「マスクをした他者」が当たり前の環境で育っていく子どもたちの脳と心の発達に生じうるリスクは？
- ✓ 口元を完全にブロックすると
他者の動く表情を経験する機会が
はく奪される
- ✓ **できれば、透明素材で作られた
マスク着用が望ましい**
(国主導で指針を出して保育現場に支援すべき課題)



「保育」という職業のさらなる地位向上を目指して

- (1) コロナの収束・終息を模索しながら待つだけでなく、保育現場で起こったすべてを「オール・ジャパン規模」のデータベースとして構築し、**全国でいつでもどこでも共有できるシステム**をつくる
- (2) コロナ禍の苦難を契機として、保育園が孤立しがちな親への心身両面の支援を果たしていること（共同養育制度の必要性）、**日本の少子化問題に多大な貢献を果たすプロとしての職業であることを強く発信**する

今直面している子育ての課題とその背景（理由）を
客観的な根拠をもって発信することにより
「次世代を守り・育ちを育むプロフェッショナル」
としてのさらなる地位向上を目指しましょう